

第6期恵庭市総合計画 分野別まちづくりワークショップ 産業・観光・まちづくり分野

日時：令和6年8月27日（火）18：30～20：30

場所：恵庭市民会館 大会議室

恵庭市を取り巻く環境について共有を行い、各分野の「恵庭らしさと、10年後のまちについて」、「10年後のまちにむけて私達ができること」、「持続可能なまちのために」をテーマとし、ワークショップを行いました。11名の市内各種団体の皆様にご参加いただきました。



Aグループ



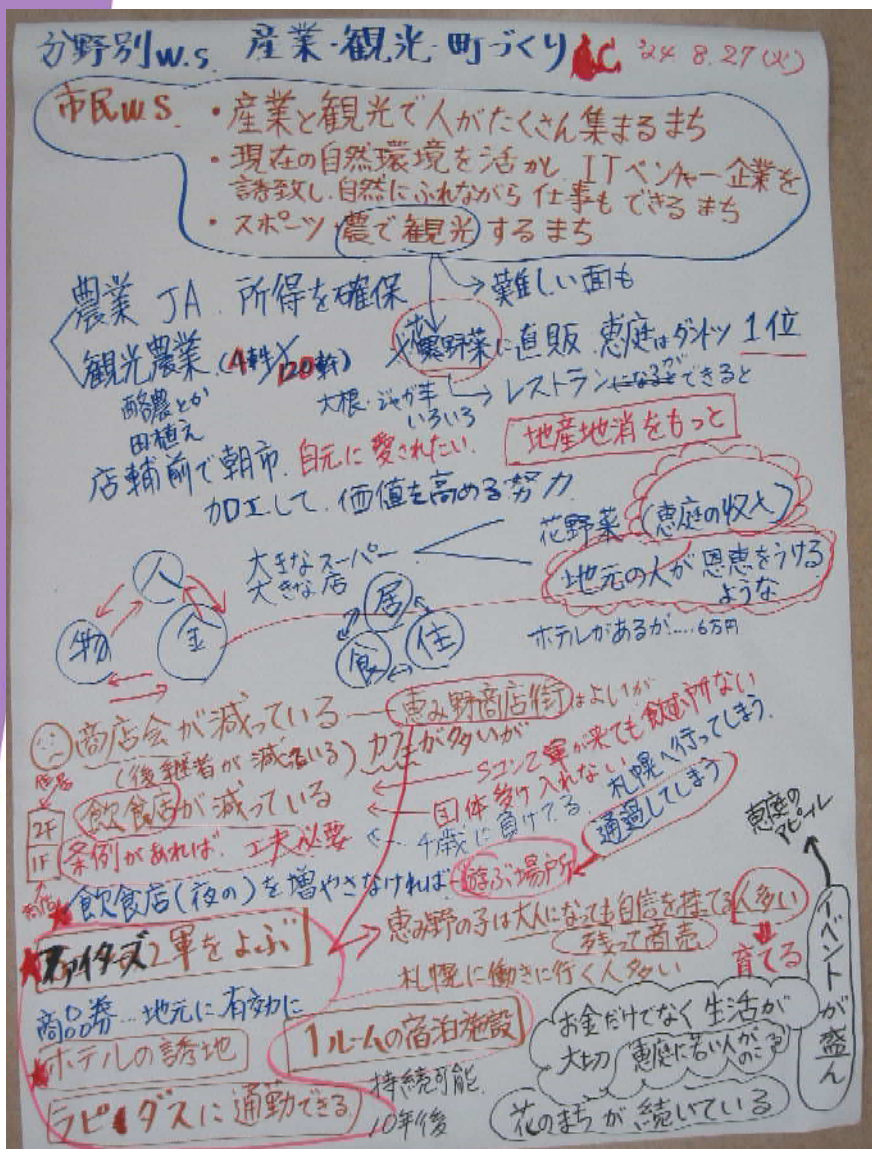
- ・人に優しい市民であることが大事。人を受け入れる優しさがある市民であるということ
- ・恵庭の都市計画はしっかりしていると思う
- ・10年後の理想としては、このまま変わらないということ
- ・相反するが、変わらないために変わり続ける
- ・変わらないために変わり続けるというのは、花のまちと言われているが、花を植えれば、それで終わりではない。その後の草むしり、手入れ等もしなければならない
- ・これまで、花を植えてきた人達が高齢化している。これからも、花のまちとするならば、そこに関わる人達も変わっていかなければならない
- ・持続可能なまちづくりとしては、やはり世代交代し、若い人たちが活躍できるようにしなければならないと思う
- ・子ども達が将来恵庭に帰ってきたいというまちにしたい
- ・例えば、たくさんの思い出づくりができ、イベントが楽しめ、花壇づくりに取り組み、花のまちとしてあり続けること等が必要

B グループ



- ・恵庭は、観光資源が多い。自然が近くにある
- ・花のまちということで、土いじりや花を植える人が多く、子ども達も花を植えるのがとても上手
- ・ガーデニング、個人の庭が観光資源になっているが、今後どのようにやっていくか
- ・きれいな農村を観光資源にしていく。観光資源とするにしても、難しい部分もある
- ・農福連携を、いろいろな人とやっていけるといい
- ・大型商業施設は少ないが、最近ラーメン屋等ができてきているようだ。ランチのまちにできないか。地元の素材を使う等、工夫してランチのまちになれるとよい
- ・スキー場やスケート場を夏場も活用して観光につなげていきたい
- ・外国人も増えてきており、色んな人との交流が必要
- ・多種多様な価値観をみんなで共有できるといい
- ・若者、高齢者等との世代間の交流も大事である

Cグループ



- ・スポーツ、農で観光するまちであるとの話だが、農業と観光でやっていくのは難しい。農業者は本業の農業だけでも忙しいので、農業者以外の人が観光の部分で利益を出して、それが農業者にも還元できるという形になっていくなら、農業と観光が繋がるかもしれない
- ・例えば、農業と観光といっても、泊まるところが少ない。結局、札幌、千歳で泊まることになる。ホテルができたらいいのかと言っても、夜、食べたり飲んだりするところがない
- ・日ハム2軍を誘致する。人がたくさん来て、宿泊できる場所、食べる場所、飲む場所も含めて計画を立てるべき
- ・地産地消は大事。野菜の地産地消もそうだが、商売の地産地消も大事。地元の人が地元の店に行く。地元の商店街活性化の為に、商売をやりたいと思うような人も育てていかなければならない
- ・お金だけでなく生活が大切。恵庭には、若い人がたくさん住んでいるが、若い人は札幌に行っている。結局、札幌で食べたり飲んだりしている。若い人たちが恵庭で食べたり遊んだりでき、最終的には仕事もできる場所にしていけるとよい

まとめ

<恵庭らしさと10年後のまち>

- ・恵庭は、自然も、交通の便も、都会との距離感もちょうどいい
- ・花壇が整備され、花のまちであるということも多くあげられた
- ・人とのつながりも大事にし、イベントを大事に、市民活動が活発であることもあげられていた

<10年後のまちに向けて私達ができること>

- ・農業に関わる話をはじめ、花、野菜を通して若い世代と交流をしていくと、色々な人が集まるのではないかという話があった。多世代が楽しめることをポイントとするとの意見もあった
- ・農業者の経済的な部分をどうするか、また、地産地消をもっとやっていくためにどうするかという意見もあった。例えば、地元野菜が食べられるレストランを農業者の負担にならない形でやれないかといったこともあげられた
- ・ホテル、大型商業施設の誘致についても意見があげられた

<持続可能なまちのために>

- ・若い人に参加してもらうことは大事で、そのためには交流が必要。多国籍、多世代で交流をしていくことが必要との意見もあった。色々な人達が参加するため、参加しやすい仕組みを作っていくことが大事である

